

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. 56 平成28年 (2016) 3月

CONTENTS

- 1～2 兵庫自治学会研究発表大会を開催
「21世紀文明研究セミナー」の開催結果について
- 3 「こころのケア」シンポジウムを開催
- 4 人口減少下の多自然地域の魅力づくりの研究
ーシニア世代を活用した新たなビジネスの展開ー
- 5 情報ひろば
HAT神戸掲示板
- 6～8 人と防災未来センター
MiRAi

10月17日、「自立的で持続的な地域社会の創造について」を大会テーマとして、兵庫自治学会研究発表大会が兵庫県立大学神戸商科キャンパスで開催されました。午前は総会・基調講演、午後からは5つの分科会に分かれ会員等による研究発表があり、200人が参加しました。

今回の大会では、人口減少の克服や東京圏一極集中の是正など地方創生の動きが本格化する中、各地域において自立した活力ある社会の構築が求められていることから、自立的で持続的な地域社会の創造に向けて地域の元気づくりをどのように進めていくか、その課題と解決策について考えました。

開会に当たり金澤和夫兵庫県副知事から来賓あいさつがあり、長年、会員が兵庫自治学会というボランティアな学会に結集して日頃考え、研究したことを互いに交換されていることに敬意を表されました。また、今回の研究成果の発表が会員の政策形成能力をさらに磨き、兵庫県および県下市町の施策に生かしていくことができれば喜ばしいと話されました。さらに、政策の実行段階でさまざまな関係者と連携して効果が上がるような人的ネットワークづくりを支援する兵庫自治学会への期待を述べられました。

総会では、平成26年度事業報告と収支決算の議案が承認されました。



平成26年度兵庫自治学会賞、研究発表大会優秀発表者紹介

昨年度の研究発表大会の分科会発表者のうち、最も優秀な論文に対して贈られる兵庫自治学会賞受賞者、分科会の優秀発表者を紹介しました。



兵庫自治学会研究発表大会を開催

全体会 (基調講演)

午前中の全体会では、まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画づくり、市民参加型のパークマネジメントに関するプロジェクトといった地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに多数携わられているstudio-L代表の山崎亮氏が「コミュニティデザインによる地域の元気づくり」と題して基調講演を行いました。

山崎氏は、現在、政府と市場が提供してくれるサービスは限られており、サービスの空白地帯ができていると前置きした上で、コミュニティの人々が集まり、何かをデザインしていくコミュニティデザインを通してつながりをつくることでその空白地帯を埋められないか模索していると述べられました。

その後、香川県の「観音寺まちなか再生プロジェクト」において、一部で始まった面白い活動の輪が広がっていった事例を紹介。今は正しさだけでは人が動かない時代になっており、コミュニティが活動するに当たっては、楽しい、美しいといった感性と、理性とのバランスが取れているかどうかを意識することが重要で、そのバランスは、活動内容だけでなく、チラシやワークショップで用いるグッズ、ワークショップ会場のデザインを決めるところから求められていると主張されました。

最後に、「観光から関係へ」をテーマにした群馬県富岡市の事例を紹介した後、質問に対して、「コミュニティが趣味の団体にならないようにするために必要なのは、「自分たちがやりたいこと」と「できること」「地域が求めていること」の3つが重なり合った活動を行うよう意識することだと答えて、話を終えられました。



分科会

午後からは5つの分科会に分かれ、23人の会員等(グループを含む)が日頃の研究成果を発表し、活発な議論を交わしました。分科会では、学識者や行政の幹部職員がコーディネーターなどを務め、研究活動を深めるためのアドバイスをするとともに、テーマに沿って問題提起を行い、会場参加者を含めたディスカッションを実施しました。

行政職員のほか、地域で活動をおられる方や大学生などからも発表があり、地域課題や行政政策への関心の高さと広がりを感じられました。今後の発表者・参加者の主体的な政策形成活動につながるものと期待されます。



分科会テーマ	学識コーディネーター	行政アドバイザー
第1分科会 地域づくり	兵庫県立大学地域創造機構 教授 畑 正夫	兵庫県企画県民部 ビジョン局長 坂本 哲也
第2分科会 教育・福祉	神戸親和女子大学 客員教授 成清 美治	兵庫県教育委員会 教育次長 小橋 浩一
第3分科会 産業	兵庫県立大学政策科学研究所 所長・教授 加藤 恵正	兵庫県農政環境部 農政企画局長 田中 基康
第4分科会 防災	兵庫県立大学防災教育研究センター 教授 森永 速男	兵庫県企画県民部防災企画局 広域防災参事 高見 隆
第5分科会 保健・環境	大阪大学大学院工学研究科 教授 近藤 明	兵庫県農政環境部 環境創造局長 濱西 喜生

交流会

分科会終了後、大学食堂にて交流会が開催され、学会役員、分科会コーディネーター、発表者、会員等が参加し、意見交換を行うなどネットワークづくりにつながる交流を深めました。

兵庫自治学会は、県政および県内市町行政の振興と発展のために、行政や地域に関するさまざまな課題について研究し、課題解決のための政策形成能力の向上と、組織や職種を超えた幅広いネットワークづくりを目指して活動しています。自らの視野を広げるために、一歩踏み出してチャレンジしてみませんか？

■会員になるには

年会費2,000円。次のいずれかに該当する方ならどなたでもご入会いただけます。

兵庫県職員、県内市町職員、県内に在住または在勤の学識者・NPO職員・本会の目的に賛同される個人

○申し込み・問い合わせ

兵庫自治学会事務局((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 学術交流センター内)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター東館6階

TEL 078-262-5714 FAX 078-262-5122 Eメール gakujutsu@dri.ne.jp <http://hapsa.net/>

「21世紀文明研究セミナー」の開催結果について

「21世紀文明研究セミナー」は、当機構の研究成果を広く県民に還元し、HAT神戸における国際関係機関等の集積を生かして阪神・淡路大震災が提示した近代文明の課題について幅広く議論を深めようと、高度で専門的な知識を求める研究者、行政・企業関係者、NPO関係者、大学院生、一般県民等を対象に開催しています。

平成27年度は、安全安心、共生社会、防災、環境、芸

術の5分野で各6講座、計30講座を、10月7日から3月16日までの5か月間にわたって実施しました。

このセミナーは、30講座の中から分野を限定せず、関心があるものを受講でき、講義の後、ディスカッションできる場を設けているのが特色です。

具体的には、安全安心分野では「減災社会に向けての新たな視座」をテーマに、「災害時の生活復興と子ども

“生活復興過程における見守り支援とコミュニティづくり～阪神・淡路、東日本大震災復興支援の実践から～”“リスボンの震災復興と都市計画”など6講座を、共生社会分野では「多自然地域の魅力を活かした地域づくり」をテーマに、“若い人たちの力が輝く魅力ある多自然地域の拠点都市形成方策”“ひょうごの地域創生戦略”“新たな視点で古民家を地域創生のエンジンにする取り組み”など6講座を、防災分野では「自然災害からの復興・復旧への備え」をテーマに“国内外の災害医療支援の現状と課題”“災害時のこころのケア”“危険回避・抵抗力向上などの事前防災による都市の震災軽減”など6講座を、環境分野では「地球温暖化への取り組み」をテーマに“低炭素社会の実現に向けて”“兵庫県の地球温暖化防止対策”“国際的な気候変動対策の動向”など6講座を、芸術分野では「美術展を深く楽しむーさまざまなメディア・技法・表現」をテーマに“パウル・クレー：絵画の仕掛けを紐解く”“「チャンネル6 国谷隆志展」を読みとく6つのキーワード”“ジョルジョ・モランディの探求”など6講座を開催。計30講座に、延べ698人の方に受講いただきました。

した。とりわけ、防災分野は関心が高く、5分野のうちで最も受講者が多く、延べ179人の方に受講いただきました。また、防災分野の受講者には、企業や行政機関で勤務する方、自治会役員や防災士の割合が多かったのも特徴的でした。

各講座の終了後に回収しているアンケートでは、約9割の方から、今後の活動や研究に役立てたいとの回答がありました。来年度も、アンケートを参考に時宜に合った内容を盛り込んで開催する予定です。



「こころのケア」シンポジウムを開催

兵庫県こころのケアセンターの日頃の研究成果の発表と、「脳科学から見た児童虐待」についての講演会を内容とした「こころのケア」シンポジウムを、2015年11月19日、同センターで開催しました。センター開設以来毎年実施しており、今回は、自治体職員や教育・保健・福祉関係業務従事者など約230人が参加。また、ご来賓として3人の県議会議員の方にもご出席いただきました。

開会に当たり、加藤寛センター長が、シンポジウム開催の趣旨やセンターの地域支援等の活動実績についての紹介を含め、あいさつを行いました。

その後、亀岡智美副センター長兼研究部長が「子どものトラウマケア～根拠に基づいた治療についての研究～」について報告を行いました。この報告で「国際的にさまざまなPTSDの子どもの治療ガイドラインがあり、これらの全てで第一選択治療として推奨されているのがトラウマフォーカスト認知行動療法(TF-CBT)である。同センターではTF-CBTの第一人者であるアメリカ合衆国の研究者を直接受けるとともに、この研究者を講師として招聘し、センター主催の研修も行っている。また、東京の被害者支援都民センター等の関係機関と協働して、精度の高い効果検証の研究を行っているところである」との説明を行いました。

次に、友田明美福井大学子どものこころの発達研究センター教授に、「脳科学から見た児童虐待」につ

いて講演を行っていただきました。超少子化社会を迎えるに当たり、子どもたちが健全な生活を送ることができる社会づくりの大切さや、そのための児童虐待対策の必要性に触れた後、「児童期の虐待経験に伴う脳の器質的・機能的な変化と発達の障害との関連について脳MRI画像を使って研究しており、この研究で激しい体罰による前頭前野の萎縮や暴言、虐待による聴覚野の拡大等が明らかになってきた」と述べられ、この現象について実際のMRI画像を映しながら詳しく説明していただきました。また、友田教授の研究室では、このような脳の発達について分子・細胞レベルでの研究に加え、不登校、引きこもり、発達障害の治療について臨床に根差した治療・支援のための研究等が展開されているとのことでした。

講演後の質疑応答を含め、子どものこころのケアについて、最後まで活発な意見交換が行われ、実りの多いシンポジウムとなりました。



人口減少下の多自然地域の 魅力づくりの研究 —シニア世代を活用した新たなビジネスの展開—

主任研究員 上野信子



はじめに

兵庫県における「多自然地域」は、都市計画法に基づく「市街化区域」および緑豊かな地域環境の形成に関する条例に基づく『まちの区域（第4号区域）』などを除く県下全ての広大な地域を指し、経済のグローバル化、少子高齢化、過疎化の進行による基幹産業の低迷等により、活力の一層の低下が懸念されている。こうした状況を好転させていくために、多自然地域の持つ条件や特性を最大限に生かした“新しい”ビジネスの展開による自律的な地域社会と経済の構築が求められる。

本研究では、多自然地域の豊かな集落生活の維持に貢献する新しいビジネスの仕組みづくりの提言に向け、地域連携活動を実践・研究している委員が、研究会を通して議論を重ねてきた。研究会では、多自然地域への移住希望者の相談に応じたり、企業による研修・体験農場の運営や、移住とともに鳥獣害対策に従事している現場の実践者、大学連携により地域協働を推進したり、仮設型直売システム定期開催型「マルシェ」の運営者・出店者等を対象に調査を行っている研究者等、さまざまな分野のゲストスピーカーを招き、さらなる多様な視点から考察を深めた。筆者は、2015年8月からの参加であるが、14年4月から2年間取り組んできた本研究の成果から一部を紹介したい。

得られた知見より

コミュニティビジネスの事例については、三宅康成政策コーディネーター（兵庫県立大学）と杉山武志委員（同）によって、県内8件（新温泉町2件、淡路・南あわじ市各1件、宍粟市2件、篠山市1件、神河町1件）、県外3件（徳島県2件、和歌山県1件）の現地調査がなされ、その結果、事業開始時点において、価格設定や市場調査などで行き詰まっている事例が確認されること、最低賃金に至らず、ボランティアの域を超えていない取り組みが比較的多いこと等の課題が抽出された。また、松永桂子委員（大阪市立大学）からは、地域の役割について知恵を出し合って「実践知」を築いていくことが重要であること、井原友建委員（地域再生研究センター）からは、コミュニティビジネスレベルの取り組みから、地域創生に資するスモールビジネス、ソーシャルビジネスへの展開に向けて求められる経営改善策が示された。内平隆之委員（兵庫県立大学）からは、継承価値を最大化する「世代間連携デザイン」が多自然地域の魅力づくりには必要であること、高嶋

正晴委員（立命館大学）からは、60代後半から70代前半までを指す「プレミアム世代」には、地域プロデューサー的役割も期待され、地域の側でも人材確保・育成することの重要性が指摘された。中塚雅也委員（神戸大学）からは、外部者を受け入れる地域活動組織の変革、“守るもの”に関する住民の主体的な議論の必要性が示唆された。

政策提言

研究成果を踏まえ、兵庫県における多自然地域に求められるビジネスモデルとして、多自然地域と都市部との連携強化による『ひょうご共生型ビジネスモデル』を提示した。同モデルの大きな枠組みとして、一つは、規模の違いはあるが多くの集落に見られる「集落単位の集団型ビジネスの深化」であり、もう一つは、地域内はもとより、地域外の移住者・半定住者による「個人・法人が手掛ける多自然地域の魅力を高めるビジネスの生成、集積、定着」である。これら双方のビジネス形態が相乗効果を発揮し、多自然地域の魅力づくりを総合的に進めていくために、各々のビジネス形態間の「連携」と地域コミュニティ内、兵庫県内での「共生」を推進するための中間支援組織の設置が特に重要であり、そのためには、兵庫県、県民局、市町の地方自治体によるコーディネート力の強化が求められる。

そして、その中間支援組織には、比較的ローカルな地域スケールでの担い手を結び付ける仲介役としてのタイプと、より広域スケールにおいて各事業を包括的にコーディネートして連携化を進めていくために設置されるタイプに分かれ、事例の中には、両方のタイプが重層的に展開されたタイプも見られた。パターンに違いがあるとはいえ、中間支援組織の下支えの中で、多自然地域の魅力を高めるビジネスの推進が期待されることから、設置を促す政策立案が求められる。

おわりに

筆者は自身の研究として、大都市都心部をフィールドに地域再生に関する研究を進めてきた。松永委員も指摘しているが、超高齢化は、多自然地域だけでなく、都市部においても深刻化することであって、これらの課題に真摯に向き合う多自然地域のさまざまな取り組みから、都市部が学ぶべき多くのヒントがあることを実感した。人口減少下にあって、若い世代、そしてリタイアしたシニア世代が、より豊かな暮らしを求めて、都市部と多自然地域を自在に選択できるためには、中間支援組織の役割がますます重要になる。

学術交流センター

研究情報誌「21世紀ひょうご」第20号発行のお知らせ

現代社会の課題を的確に捉え、専門的立場から課題を分析・紹介し、具体的な提案を行う情報誌です。第20号では、「アジアの中での高齢化」をメインテーマに、日本と同様、高齢化が進みつつあるアジアの動向も参照しながら、今後の社会保障制度や医療福祉人材の確保、ライフスタイルや都市計画のあり方等について特集し、各分野の学識者から寄稿いただいています。

▶B5判 第20号約90ページ

※執筆等詳細については、当機構のホームページを参照ください
http://www.hemri21.jp/the21_hyogo/index.html

▶発行=年2回

▶購読料=800円(送料別途)

※定期購読をされる場合は当センターが送料を負担します

●申し込み・問い合わせ

学術交流センター TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122
Eメール gakujuetsu@dri.ne.jp

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

特別展

生誕180年記念 富岡鉄斎—近代への架け橋—展

近代文人画の巨匠・富岡鉄斎(1836-1924)の生誕180年を記念して開催しています。壮大なスケールで描かれた山水画、中国や日本の故事に取材した人物画、そして最晩年の傑作など鉄斎の名品が一堂に会します。



《富士山図》(右隻)1898年 紙本着色、六曲一双 清荒神清澄寺 鉄斎美術館蔵(前期展示)

文人としての生き方を貫き、伝統的文人画の領域に軸足を置きながらも、その作品は後世の画家たちを驚嘆させる近代性を有していました。深い教養に基づき、奔放な筆致と華麗な色彩で独自の画境を築いた鉄斎の世界を、ぜひこの機会にご堪能ください。

■会期=5月8日(日)まで

※前期/〜4月10日(日)、後期/4月12日(火)〜5月8日(日) 前期・後期でほぼ作品が入れ替わります

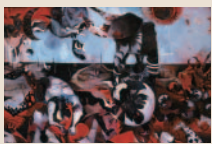
■観覧料=一般1,300(1,100)円、大学生900(700)円、高校生・65歳以上650(550)円、中学生以下無料

※()内は20人以上の団体割引料金

県美プレミアム

小企画「中西 勝 展 画業と生涯を偲んで—兵庫県所蔵作品を中心に—」

1924年に大阪で生まれ、49年から神戸に住んだ中西勝は、2015年5月に没するまでの長きにわたり、兵庫県の美術のみならず芸術・文化の中心的人物であり続けました。本展は、没後ほぼ1年を経るに当たり、豪胆と繊細さを併せ持ったユニークな人柄と60余年間の画業をしのんで開催するものです。主に、生前中に兵庫県と当館が作者から受贈した作品を基に、画業の変遷とその芸術の本質を探ります。



中西 勝《日本アクロバット》1956年

特集「黒のひみつ 美術のなかの黒をめぐる」

特集では、黒色をめぐるさまざまな表現を当館の所蔵品からピックアップしてご紹介します。作品の中で黒色が担う意味や、造形にどのような視覚的効果をもたらしているのか、また、さまざまな媒体による黒色の違いなどにご注目ください。

■会期=6月19日(日)まで

■観覧料=一般510(410)〔306〕円、大学生410(330)〔246〕円、高校生260(210)〔156〕円、65歳以上255(205)〔153〕円、中学生以下無料

※()内は20人以上の団体割引料金、〔 〕内は特別展「生誕180年記念 富岡鉄斎—近代への架け橋—展」とのセット割引料金

◎休館日=毎週月曜日

JICA関西

◆食べることから始める国際協力!

JICA関西食堂の月替りエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どんなときでもご利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。大好評の月替りエスニック料理は4月にネパール料理、5月にトルコ料理をご用意します! ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。



写真は2月のスリランカ料理

メニューの詳細と写真については、

こちら→ <http://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>

■営業時間=(昼)11時半から14時まで (夜)17時半から21時まで

※各終了30分前ラストオーダー

※年中無休(年末年始を除く) ※3月31日(木)、4月1日(金)は臨時休業

◎問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西国際センター) 市民参加協力課 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

TEL 078-261-0384 FAX 078-261-0357 Eメール jicaksic-event@jica.go.jp

その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!→<http://www.jica.go.jp/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

復興支援をはじめとした、日本赤十字社の活動に力を。

東日本大震災から5年。被災地の復興への歩みは、まだまだ続きます。苦しむ人がある限り、苦しむ地域がある限り、日本赤十字社は、これからも復興支援活動を続けます。一日も早い復興のために、皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

赤十字活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています。活動資金にご協力をお願いします。

■協力方法=郵便局・ゆうちょ銀行の場合

口座記号番号 01110-0-1136

口座加入者名 日本赤十字社兵庫県支部

※窓口で取り扱いの場合、振込手数料は無料です

◎お問い合わせはお電話またはホームページで

TEL 078-241-8921

赤十字 兵庫

検索



私たちは、忘れない。



あった、あった、ここや。
えらい大きい会社やなあ、ドキドキしてきたわ。

あかん、鎮まれ心臓
営業マンに弱気は禁物、最初が肝心や。

初めて出会った
人と人との

つながり。

それが、
わたしたちのしごとです。

「はじめまして。カワサキと申します」
名刺を交換したらお付き合いの始まり。
小さな紙片からどれだけ仕事広がるか、
さあ、ガンバルぞお〜!

株式会社 神戸新聞総合印刷

【神戸新聞総合出版センター】

<http://www.kobenp-printing.co.jp/>

「災害メモリアルアクションKOBÉ2016」報告会を実施しました

当センターでは、阪神・淡路大震災の教訓を次世代に伝えることを主な目的に「災害メモリアルKOBÉ」を2006年から15年まで実施してきましたが、16年より、この先の10年を見据えて「災害メモリアルアクションKOBÉ」を新たに開始しました。

この取り組みは、学生の防災・減災活動を通じて、災害教訓を“活かす”ことができる人材を育成するとともに、防災の取り組みをいろいろな地域や世代へ広げるための事例をまとめ、今後の被害を減らすのに寄与することを目指しています。

初年度の今年は、「神戸のコトバ」をテーマに、参加希望した学生5グループが阪神・淡路大震災で被災した地域等でインタビューやアンケートを実施し、交流事業などを企画しました。

この成果を今後の防災に“活かす”ため、1月9日(土)午前、当センターで活動報告を行いました。各グループの活動報告に続き、司会の松蔭高等学校放送部がNHK杯全国高校放送コンテストに応募した、未だ災害を経験していない「未災者」について考えるテレビドキュメント「未(まだ)」を上映。その後、参加グループ代表者によるパネルディスカッションが開かれ、10年後に「神戸のコトバ」を伝えるための意見交換を行いました。

【参加グループ】(司会：松蔭高等学校放送部)

兵庫県立舞子高等学校
国立明石工業高等専門学校防災団
兵庫若者防災ネットワーク
神戸学院大学現代社会学部社会防災学科船木ゼミ
関西大学社会安全学部近藤研究室



防災ゲーム開発 (国立明石工業高等専門学校)



震災経験者アンケート (兵庫県立舞子高等学校)



会場風景



活動内容をポスターで掲示



パネルディスカッション

「減災コミュニケーション・バンダナ デザイン・コンテスト2016エントリー作品展」を開催しました

2月16日(火)から3月27日(日)まで、西館1階ロビー(無料ゾーン)で「減災コミュニケーション・バンダナ デザイン・コンテスト2016エントリー作品展」を開催しました。

ハンカチ代わりに手軽に持ち歩けるバンダナは、非常時には三角巾や帽子、マスクなどに活用できます。また、デザインを工夫することで、「SOS」といったメッセージも発信できるなど、コミュニケーション機能も備えています。

同展は、いざというときに役立つバンダナのデザインを競うもので、芸術大学の学生やプロデザイナーなどが提案する、非常時に役立ち、普段使って



も違和感がない作品約50点を展示しました。来館者にもお気に入りの1点を選んで投票いただき、優れた作品は、主催の「減災デザイン・プロジェクト」が実施する審査会で選定されます。

企画展「減災グッズ展vol.4 パーソナリティ×減災」を開催しました

2015年12月15日(水)から2月28日(日)まで、西館2階防災未来ギャラリー(有料ゾーン)で「減災グッズ展vol.4 パーソナリティ×減災」を開催しました。

同展は、防災・減災用品を開発、販売する企業や団体から公募した製品を展示するものです。4回目となる今回のテーマは「パーソナリティ×減災」。高齢者や障害者、妊産婦、外国人などの災害時要援護者に役立つグッズを取り上げました。

「救助・避難行動のための装備」「避難所の生活・運営を支えるグッズ」「U D(ユニバーサルデザイン) 食」等のカテゴリごとに計約80点を展示。腎疾患やアレルギー疾患の人向けに開発された備蓄食や、高齢者も使いやすい肘掛け付きのダンボール製簡易トイレなどが並びました。多くの来館者が興味深く見学され、いざというときへの備えの大切さをあらためて考える機会となりました。



東日本大震災5年企画展「3.11から5年。私たちの旅」開催中

3月11日(金)から6月30日(木)まで、西館2階防災未来ギャラリー(有料ゾーン)で東日本大震災5年企画展「3.11から5年。私たちの旅」を開催しています。

未曾有の津波被害をもたらした東日本大震災から5年が経過したのを機に、「5年前のあの時と、あれからの時間を個々人がどのように過ごしたのか」を振り返るアンケートを基に調査を実施。そこから見てきた人々の足跡や思いを視覚化することで、災害の教訓や課題、被災地の今とこれからについて考えます。

また、東館では東日本大震災関連の展示等を行っています。1階こころのシアターでは3Dドキュメンタリー映像「大津波-3.11 未来への記憶-」を上映。2階通路では企画展「みやぎの復興まちづくりパネル展」と壁面展示「阪神・淡路大震災と東日本大震災」を実施しています。ぜひお越しください。



(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間 9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

入館料金

大人	大学生	高校生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	300円(240円)	無料

※()は20人以上の団体料金
※障害者、65歳以上の高齢者は上記の半額

休館日

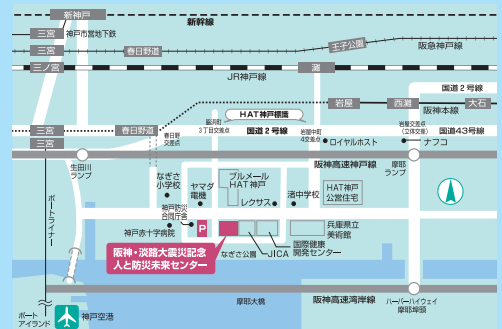
毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月6日まで)は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

鉄道
・阪神電鉄「岩屋」駅、
「春日野道」駅から徒歩約10分
・JR「灘」駅南口から徒歩12分
・阪急電鉄「王子公園」駅
西口から徒歩約20分

バス
・三宮駅から約15分
・阪神高速道路神戸線
「生田川」ランプから約8分
・阪神高速道路神戸線
「摩耶」ランプから約4分
・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



平成27年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」表彰式・発表会

当機構が兵庫県・毎日新聞社と共催し、学校や地域で取り組む、防災教育・活動を顕彰する1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」の表彰式・発表会を、1月10日(日)に兵庫県公館で実施しました。

今回は、全国各地から171校の応募があり、各賞を含めて29校・団体が受賞されました。グランプリに選ばれたのは、東日本大震災をきっかけに防災教育に力を入れている愛知県半田市立亀崎小学校で、昨年のぼうさい大賞に続く2年連続の受賞となりました。

式典のオープニングでは、神戸市立西灘小学校の「しあわせを運ぶ合唱団」の生徒がすばらしい歌声を披露。表彰式の後、加古川東高等学校放送部による司会で、グランプリ、ぼうさい大賞、優秀賞を受賞した学校・団体がそれぞれの活動内容を報告しました。熱心に聞き入る参加者も多く、満席の館内は活気にあふれていました。

また、兵庫県内の小、中、高校生を対象に行われた「防災力強化県民運動ポスターコンクール」の表彰式も併せて実施しました。



受賞校

グランプリ

- ・半田市立亀崎小学校(愛知県)

ぼうさい大賞

- ・徳島市津田中学校(徳島県)
- ・女川1000年後の命を守る会(宮城県)
- ・静岡大学教育学部 藤井基貴研究室(静岡県)

優秀賞

- ・埼玉県立日高特別支援学校(埼玉県)
- ・能登町立小木中学校(石川県)
- ・宮城県多賀城高等学校(宮城県)
- ・慶應義塾大学SFC 防災社会デザイン研究会(神奈川県)

奨励賞

- ・阿南市立津乃峰小学校(徳島県)
- ・田辺市立新庄中学校(和歌山県)
- ・岐阜県立大垣桜高等学校家庭クラブ(岐阜県)
- ・高知県立須崎高等学校(高知県)
- ・イケあい地域災害 学生ボランティアセンター(高知県)

はばタン賞

- ・気仙沼市立気仙沼小学校(宮城県)
- ・亘理町立荒浜中学校(宮城県)
- ・福島県立桜が丘高等学校 家庭クラブ(福島県)
- ・灘地域活動センター(N.A.C.)(兵庫県)

だいじょうぶ賞

- ・大分県立中津支援学校(大分県)
- ・千葉県立東金特別支援学校(千葉県)
- ・香川県立盲学校(香川県)

津波ぼうさい賞

- ・西尾市立白浜小学校(愛知県)
- ・高知市立愛宕中学校(高知県)
- ・三重県立南伊勢高等学校 南勢校舎(三重県)

教科アイデア賞

- ・関西大学社会安全学部 近藤研究室「チームSKH」(大阪府)

フロンティア賞

- ・美波町立由岐小学校(徳島県)
- ・大町市立美麻小中学校(長野県)
- ・兵庫県立加古川東高等学校 地学部 真砂土班(兵庫県)

継続こそ力賞

- ・水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊(山口県)
- ・印南町立印南中学校3年生 総合的な学習 津波研究班(和歌山県)



Hem21NEWS
vol.56

平成28年3月発行

(公財) ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部
TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究調査本部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター
TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

●学術交流センター
TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください